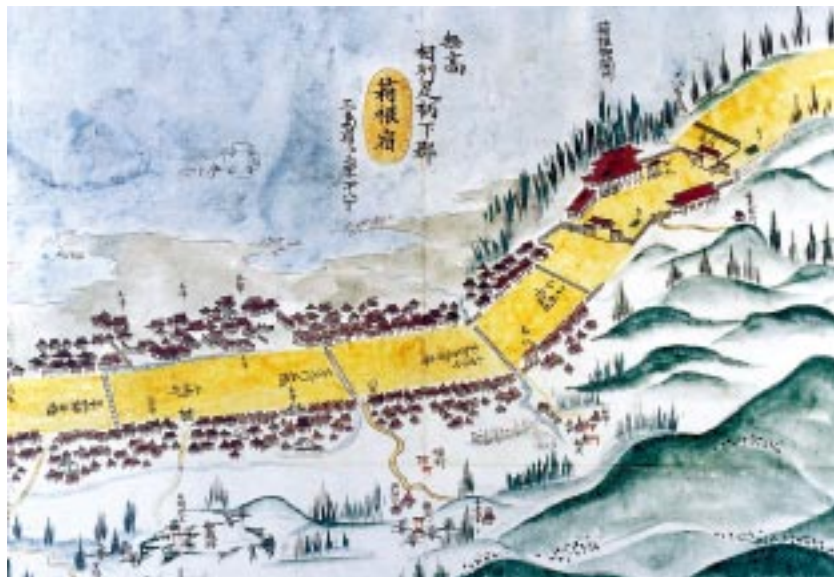


五街道分間延絵図



正式には「五海道其外分間見取延絵図」と題し、折本仕立で52冊が収蔵されています。江戸幕府の道中奉行所が、18世紀末から19世紀初頭にかけて測量し一千八百分の一の縮尺で描いたもので、東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中の五街道とその脇街道まで含まれています。この絵図には、宿場、寺社、旧跡、一里塚、高札場、橋など街道の様子が詳細に記入されていて、行政上必要な内容がすぐにわかるようになっていました。

幕府道中奉行所の業務は、宿駅の管理や諸街道の取締、公事吟味など通信交通行政全般でしたが、明治維新後、その業務と関連書類は郵政省の前身である駅遞司に引き継がれたため、道中奉行所で使用されていた延絵図が当館に残されたものと考えられます。

延絵図は3部作られ、江戸城内に1部、道中奉行所に2部置かれましたが、現存するのは2部のみで、もう1部は東京国立博物館が所蔵しています。

(掲載写真は東海道分間延絵図から箱根関所周辺部分)